

ごあいさつ



帯広市長

米沢 則寿

第49回全国実業団対抗テニス大会（ビジネスパル・テニス）が帯広市で開催されますことを歓迎申し上げ、ごあいさつを申し上げます。

本大会は、昭和37年から開催されているとうかがっております。全国の実業団チームが地区予選を経て、ここに集い、腕を競い合う、伝統の大会を、本市で開催していただけることに、深く感謝を申し上げます。

レベルの高い、見ごたえのある試合が繰り上げられる大会とうかがい、市民ともどもとても楽しみにしています。

本地域には、本大会会場となる帯広の森テニスコート20面のほか、昨年9月にオープンした屋内スピードスケート場内に屋内コート6面、さらに市内各所にもコートを整備しており、テニス愛好者も多くいます。全国から多くの選手が集まる本大会が開催されますことは、地元の多くの愛好者にとっても栄誉なことと思います。

選手の皆さんにおかれましては、日頃の練習の成果を存分に発揮され、チームメイトとともに、楽しく悔いのない試合を展開していただきたいと思います。また、緑あふれる「帯広の森」のなかで、北海道の自然をたっぷり感じていただきたいと思います。

ここ帯広・十勝は、日本の食糧基地と言われている地域です。豊かな大地の恵で、食べ物がおいしい地域です。スイーツなど、この地ならではの味も十分楽しんでください。

最後に、本大会を主催されております財団法人日本テニス協会、並びに主管されております北海道テニス協会の役員、関係者の皆様に、改めて本市での開催に感謝を申し上げます、また、大会が盛会に終わられますことをご祈念申し上げまして、歓迎のごあいさつとさせていただきます。

ごあいさつ



財団法人 日本テニス協会
実業団委員会委員長

矢澤 猛

昨年は九州の大分市にて開催いたしました通称ビジネスパルは、今年度は北海道の山田委員の熱意とご尽力により、第49回全国実業団対抗テニス大会として、ここ帯広にて開催出来ることになりました。南国から北国への大きな移動にともない、天候も含め様々な環境の違いの中、このように素晴らしい大会を開催出来るようになりました事に対しまして、北海道テニス協会、帯広テニス協会、帯広市、ならびに運営関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

このビジネスパルは委員長として昨年初めて拝見させていただきましたが、テニス協会が主催しています他の国内、国際大会とは大変違った印象を受けました。それはレセプションや試合を通じて、日頃忙しく仕事に追われていると思われる選手の皆さんが、とても愉しく笑顔で本大会をエンジョイしているように見受けられた事です。もちろん選手の皆さんは、日頃の練習成果を遺憾なく発揮され、優勝を目指して頑張っておられるのですが、試合コート以外の場所では、様々な情報交換をしたり、その地域の美味しい食べ物を楽しんだり、その3日間の滞在を大変有意義に過ごされました。個人戦とは違った緊張感の中で、この団体戦の醍醐味を楽しむ、これはとても素晴らしい事だと思います。

この自然豊かで雄大な北海道、帯広での大会を、テニスを通じて思い出の残る滞在としていただき、地元に戻りましたら、その素晴らしさを友人や後輩の皆さんに是非お話いただき、皆さんのテニス人生を更に大きくしていただきたいと思います。我々委員会のメンバーはそのお手伝いをするために、色々と知恵を絞って頑張っておりますが、何かアドバイス等ありましたら、遠慮なくお話いただきたいと思います。

最後になりますが、まだまだ厳しい経済状況が続いている中で、永年ご後援頂いております朝日新聞社様、ご協賛頂いておりますブリヂストンスポーツ株式会社様をはじめ、ご協力、ご支援を頂いております関係各位にお礼を申し上げ、ご挨拶と致します。